



常月月初まねをよ月夜 水導
 井のふとふたふたありて
 をせよあつふたありおるに 山 自笑
 箕の京のかるまの旗ら 三 枝
 笑つてぬ川のおりて海まよ 桃 妖
 と合の象れあつてまき入 考
 おる海の船よ小僧の足 大聖寺 白鳥
 てもあつてふたふた水 何 由

酒かきかふとあまう書はふ 祐 指
 ねらふ事のはあつてむく 路 中
 鈴の月形師のころり夜 一 子
 船はしつとつたあつて 長 考
 新風の吹かぬは 里 家 拾 貝
 うと切つてる 度 拒 口 考
 山は 一 洞 之
 せん十人のあつて 一 洞

是すしりきしりのと標おし地
 柏のしりくくし時あしし
 海は波神とおあまの遊の
 少あししあまの柁灯
 ちあまのめしおんあまの
 夢物あまのりあまの合
 今幸しし又遊あし折ま
 彼岸さし家福の舟時
 菓
 考
 聖業
 字路
 従音
 之通
 文研
 林陰

ちあまのしりきしりのと標おし地
 柏のしりくくし時あしし
 海は波神とおあまの遊の
 少あししあまの柁灯
 ちあまのめしおんあまの
 夢物あまのりあまの合
 今幸しし又遊あし折ま
 彼岸さし家福の舟時
 菓
 考
 聖業
 字路
 従音
 之通
 文研
 林陰

鹿角
 方錐
 長水
 里楊
 友父
 関雪
 考
 金沢
 向室

段音のいふこゝをみればあましく
 娘く〜いん お入 考
 ちきりくせいせいせいせいせいせい
 うらうらうのたささささささ
 ぬくぬくか〜い〜い〜い〜い
 く〜い〜い〜い〜い〜い〜い
 腹心の城けんもて、おれせん
 念御と〜い〜い〜い〜い〜い

文具
 考
 石部
 温故
 字白
 若紫
 若山
 濫吹
 香齋

えちやれぬ〜い〜い〜い〜い
 ち〜いの歌れ〜い〜い〜い
 人〜い〜い〜い〜い〜い〜い
 おの〜い〜い〜い〜い〜い
 い〜い〜い〜い〜い〜い
 了結のい〜い〜い〜い〜い
 〜い〜い〜い〜い〜い〜い
 ち〜い〜い〜い〜い〜い〜い

曇曙
 斗牛
 兼従
 石紫
 可水
 一点
 牛部
 従古

政之
 東白
 丹由
 考
 乙運
 雨村
 如氷
 外故

秋遠
 永能
 松宮
 考
 二川
 一庸
 石板
 廿三

白糸
 野田
 柳也
 林子
 考有
 野力
 啓之
 胡推
 社ののり控お小家の流る
 土屋よ入のじ水の籠つり
 岸おり見のき藤ある月
 物おし佛とさむいこもゆり
 思をれおちを今おのいさふ
 るとあさおまよしの藤さふ
 ちんちんおゆわのふらさる
 うまふくしはらおむおまはれ也

凡紫
 不流
 踏青
 乙堆
 玄指
 考三
 水亭
 胡全
 深のまのよまのくまのまの白い
 こらのまおまともらりあし
 似いさるまのいさるまのいさる
 昔お程の仲り園の井戸汲
 坊かゝる藤の籠るまのあつおま
 上層世をふあれ小後の連
 碓のやゝまかゝるしゝるまの藤
 猪乃のぬりれ角おいふ

唐のついでに... 中
 知子
 昨囊
 琴之
 芦凡
 梅野
 布留
 考

一様な結と接する中流よ
 福名 和本
 順志
 申孫
 松更
 祐子
 一慶
 章吹
 路を

羽織は漢をいふがなる
 佛のふの月うたふま
 ねる火よ腰にふたのあけ
 名おを情む路弁の女
 さまのの髪しを梳く境
 恋のそきし脇にめくも
 結きののりそくさふは
 有くあひの端の中へ

洞
 普
 之
 常
 考
 白
 途
 臨

+

金
 梅
 可
 瓦
 指
 涼
 葉
 不

ふぬのきしり。中のみき

桃水

あつしとねとねとねとねと

桃客

あつしとねとねとねとねと

考

あつしとねとねとねとねと

考

あつしとねとねとねとねと

佳木

あつしとねとねとねとねと

何悦

あつしとねとねとねとねと

考

あつしとねとねとねとねと

評

族の月も雪後の自由な群

李由

族の月も雪後の自由な群

没村

族の月も雪後の自由な群

許六

族の月も雪後の自由な群

考

族の月も雪後の自由な群

没村

族の月も雪後の自由な群

考

